

プ/ロ/ジ/ェ/ク/ト/中/間/報/告/会

2年目を迎えるローム記念館プロジェクト、 質の充実がますます期待される。



2005年9月29日(木)、同志社ローム記念館においてプロジェクト中間報告会が開催された。

1年間の活動の中で、前半の活動を終え、進捗状況や成果などの報告を行った。

各プロジェクトのプレゼンテーションに対し多くの鋭い質問が出され、各プロジェクトの目標や課題を再確認する場となった。また、プロジェクトメンバーが他プロジェクトのプレゼンテーションを聞くことで互いに刺激を受け合うとともに、プロジェクト間の交流をもつこともできた。

最後に同志社ローム記念館プロジェクト運営委員の山田和人教授が総評を述べ、「この報告会により明確になった問題点を今後の課題とし、最終成果報告会に向けてがんばってほしい。そして今後社会に出た時にここでの経験は役に立つと思ってがんばって下さい。」と各プロジェクトメンバーを激励した。

誘致プロジェクト

e-Learning市場導入に伴う、 コンサルティング研究及び商品開発

プロジェクト参加企業：萬世電機株式会社
プロジェクト責任者：和氣早苗(同志社女子大学学芸学部助教授)
メンバー数：12名

前年度「e-Learning教材の開発とインフォテーブルの基礎研究」では、具体的なコンテンツ開発、市場マーケティング、市場導入を行いました。本年度プロジェクトでは、e-Learningシステムを引き続き活用し、コンテンツ開発の応用と自治体との融合によるコンサルティング手法の研究を実施、マーケティングやコンサルティングの現場へ出向いての活動も行います。

エンターテイナー・スイーツ

プロジェクト参加企業：UHA味覚糖株式会社
プロジェクト責任者：川田隆雄(同志社女子大学学芸学部助教授)
メンバー数：17名

「なぜこの商品は売れないのか」、「売れる商品を作るには」そんなテーマに対する新発想の立案を考えています。商品づくりに欠かせない「パッケージデザイン」や、「キャラクター」、常識にとらわれないクリエイティブな発想によって、これまでの菓子市場になかった全く新しい切り口の菓子商材の開発をめざしています。

Playful Intelligence —こども向けワークショップのデザイン

プロジェクト参加企業：株式会社CSK
プロジェクト責任者：森公一(同志社女子大学学芸学部教授)
メンバー数：14名

米国マサチューセッツ工科大学(MIT)開発の小型コンピュータ「クリケット」などを使い、ウェアラブルコンピュータをテーマとした作品づくりとファッションショーのプロデュース、こども向けワークショップのデザインと実践を行います。



■ PACTのロボット制御アーキテクチャへの応用

プロジェクト参加企業：株式会社キュービック
プロジェクト責任者：横川隆一(同志社大学工学部教授)
メンバー数：6名

PACT(Personal Area Communication Tool)の特徴である情報機器及び情報システム間をハンズフリーに情報伝搬する機能を介護用ロボットの制御に応用することを目指し、これを実現するためのPACTのソフトウェア開発を目的としています。

■ MS-CoLabo

プロジェクト参加企業：マイクロソフト株式会社/デジット株式会社
プロジェクト責任者：柳田益造(同志社大学工学部教授)
メンバー数：6名

学生ならではのアイデアを活かしてマーケティングリサーチや製品開発を行います。中高生を対象にしたデジタルコンテンツ作成授業やウェブコミュニティーの構築、さらに学内のヘルプデスク運営や、IT講習会などのイベントの企画運営をめざします。

公募プロジェクト

■ 同志社大学レスキューロボットプロジェクト D.U.R.P

プロジェクトリーダー：西井吉伸(同志社大学工学部)
プロジェクト責任者：橋本 雅文(同志社大学工学部教授)
メンバー数：21名

ロボットを製作することにより、講義だけでは学ぶことのできない、様々な技術を習得することを第一目的としています。また、単にロボットをつくるだけでなく、「レスキューロボット」を阪神大震災を経験した関西の大学で積極的に研究・作成しなくてはいけないテーマであると考え、製作に取り組んでいます。製作しているロボットはレスキューロボット大会に出場させ、救助ロボットとしての良い評価を得ることを目標にしています。

■ サーバ100%活用プロジェクト

プロジェクト参加企業：カゴヤ・ジャパン株式会社
プロジェクト責任者：小坂隆浩(同志社大学工学部専任講師)
メンバー数：55名

実際にサーバを構築・運用・管理することにより、ITシステムのサーバに関する知識と技術を習得し、「サービスの利用者」から「サービスを提供する側」へ。WEBサーバの構築を中心として、従来のWEBサーバにない有用なサービス、学生誰もが利用可能なサーバを構築することをめざします。

■ こんなん欲しかったん Part 2

プロジェクト参加企業：ファイルメーカー株式会社
プロジェクト責任者：関口英里(同志社女子大学学芸学部助教授)
メンバー数：6名

昨年大好評いただいた「こんなん欲しかったん キャンパスツール」に続く、第2弾。今年度は、学内だけでなく他大学の学生とも連携して、充実したキャンパスライフをアシストする役立ちツールを共同で作成します。完成したツールは、全国の大学生にも使ってもらえるよう、ホームページから無料配布します。

■ 被災時のための生活再建支援システム開発

Cure the Life

プロジェクトリーダー：馬場麻里絵(同志社大学商学部)
プロジェクト責任者：竹廣良司(同志社大学経済学部助教授)
メンバー数：27名

災害はいつ、どこでどのように起こるか分かりません。だからこそいざというときに有効な対処法を事前に立てておくことが重要になってきます。そこでこのプロジェクトでは災害発生時に生まれるニーズをこれまでのケースから把握し、行政やボランティアが即時的かつ円滑に復興活動を開始できるようにするためのITシステムの開発やデジタルコンテンツを利用した大学生のボランティアネットワーク・システムの開発を行います。